

平成29年度県立茨城東高等学校自己評価表

目指す学校像	「夢・希望・自己実現」のテーマの基に、 (1)新たな夢・目標を常に持ち続け、自己の可能性を伸ばす。 (2)基本的生活習慣を確立し、基礎学力を向上させ、進路希望の実現を図る。 (3)気力・体力・忍耐力を養い、社会に必要とされる人間の育成を図る。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 学校設定科目「ベーシックトライ」における電子黒板の活用と反復学習により基礎学力の向上が見られた。 学校設定科目である「キャリアデザイン」と「ベーシックトライ」を導入した効果が表れており、進路未決定者が減少傾向にある。 学校紹介による就職内定率は100%である。四年制大学希望者の中でセンター利用入試や一般入試で私立大学への進学を果たしている生徒が増加傾向である。昨年度の公務員合格者数は4名であった。 学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いておらず、学習目標が設定できない生徒がいる。 2 基本的生活習慣の確立において援助を必要とする生徒が目立ち、遅刻数が増加した。 全職員一丸となって遅刻指導や服装・髪型指導など身だしなみの指導に当たっている。 3 部活動加入率が約40%であるが、どの部活毎日練習に励んでいる。写真部は、4年連続関東大会に出場した。 4 環境保全活動に取り組む組織「We are 沼沼っ子！」の活動が地域社会から評価されている。ボランティア活動等を実施し、地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を培っている。	進路実現に向けた教育活動の充実	①アクティブスクールの利点を生かした取組を充実させる。 ・「ベーシックトライ」の効果的な実施、ICT機器の有効な利活用、習熟度別授業等により基礎学力の向上と定着を図る。 ・「キャリアデザイン」をはじめ、あらゆる機会を捉えてキャリア教育の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を育成する。 ②生徒の実態に即した授業を展開する。 ・チャイムスタートによる1分を大切に授業を実践する（チャイム着席指導の徹底）とともに、家庭学習の習慣化を促す。 ・相互授業参観や校内研修等を実施し、教員相互の資質・指導力の向上に努める。 ③一人一人の進路希望に添った指導を充実させる。 ・3か年を見通した進路指導計画を作成し、確実に実践する。 ・各種資格取得に向けた取組を支援する（一人一つ以上の資格取得を目指す）。 ・模擬面接指導、各種模擬試験、課外授業等を定期的に行う。 ・進路に関する情報を学校全体で共有し、生徒・保護者に正確かつ速やかに提供する。	B
	道徳観・倫理観を育成し、豊かな人間性を培う	①「ダメなものはダメ」という厳しい態度とともに、生徒に寄り添う姿勢で指導に当たる。指導は教職員全体で行う。 ②生活の自己管理能力を涵養する。 ・基本的生活習慣を確立させる。欠席をしない、身だしなみを整える、あいさつを励行する、時間を守るの徹底を図る。 ・礼儀や言葉遣いなど、基本的なマナー及び公共マナー・交通マナーを身に付けさせる。	B
	学校行事や部活動を通して学校生活を充実させる	①部活動への興味・関心を高め、積極的に部活動に参加させる。 ②生徒会・各種委員会活動の活性化を図る。 （学校への帰属意識の高揚、高い目標での自己実現） ③校内外での体験的な活動を通じて、他者への理解を深め、一人一人の心の成長を図る。	B
	地域に貢献し信頼される学校づくりを推進する	①家庭・地域社会と適切に連携協力して、開かれた学校づくりを推進する。 ②学校ホームページやマスコミ等を活用して、学校の教育活動を積極的にPRする。 ③事件・事故の防止に努め、安全・安心な学校づくりを推進する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期） への主な課題
国語	漢字力・読解力を中心とした基礎学力の向上	・始業前の学習準備を徹底させ、服装・態度を見直す指導をした上で始業する。 ・「ベシットライ」と連動し、漢字練習の習慣化を図り、常用漢字を習得させる。 ・授業時の「音読」や板書の「書写」、電子黒板の効果的な利用を通し、適正な言語感覚を養うことで日常での「読み」「書き」を習慣化させる。 ・教科書の音読テストやノート提出等を通して、その達成度を随時確認する。	B	B	・弁論大会を実現する。 ・電子黒板の効果的な利用法の研究。 ・始業前の学習準備を徹底させることを継続して行う。 ・漢字検定の合格率を上げるための研究を行う。
	進学・就職試験に対応する実践力の育成	・進学試験に向けて積極的に課外授業に参加させ、過去問題の演習や面接・小論文指導を通して、進路実現に必要な実践力を身につけさせる。 ・弁論大会などを通じ、自分の思いを言葉で伝えるための自己表現力を高め、「社会」で通用する力を養い、生徒自身が自信を持てるよう指導する。 ・漢字検定に積極的に取り組ませる。また、対策課外を実施することで資格取得をサポートし進路実現に役立たせる。	C		
地歴・公民	授業を受ける態度の育成	・話を聞く態度を身につけ、社会人として通用する力を養う。	B	B	・生徒の興味関心が高い分野を中心に掘り下げる工夫が必要。学力差への対応も大切。基礎学力定着とともに、思考力を育む授業実践を行う。
	基礎学力の定着	・基礎学力の定着をはかり、生徒の進路を実現できるようにする。また、生徒に身近な学習内容を吟味し、興味・関心をひくような授業を展開する。	B		
	進路実現に対する意識の向上	・年次と連携し、授業や課外などで就職試験やセンター試験の過去問題を実施することにより、進路実現の意識を高め、就職試験やセンター試験に対応できる力を養う。	C		
数学	授業を受ける態度の育成	・チャイム着席の徹底、ノートを取る、授業者の説明を聞くなどの、正しく授業を受ける態度を育成する。	C	B	・教材の継承を行う。チャイムスタートができていないので学校全体に呼びかけを行う。数学検定2級合格者を毎年1人は輩出する。
	基礎学力の定着と、定期試験の得点の向上	・学び直しや繰り返し学習を通して、義務教育範囲の学習内容の定着を目指す。定期試験の平均点60点を目指す。また成績下位者に対して放課後課外を実施し、欠点保有者を減らす。	B		
	進学・就職試験に対する意識の向上	・進学・就職試験に対する意識を高めるため課外や検定を積極的に行う。授業内で、実際の試験問題等を取り入れ、生徒の進路意識の向上を目指す。	B		
理科	授業を受ける態度の育成	・学習用具の準備、制服の着用、机上の整理整頓など授業を受ける態度を養う。	C	C	・言語活動を取り入れた主体的、積極的な授業態度の育成を目指した授業法の研究を行う。 ・実験観察の機会の拡充を図る環境整備に努める。 ・ICTのさらなる活用法を研究する。
	分かる喜びを実感する授業の展開	・実験・演習を取り入れることにより、生徒の興味・関心を引き出し、科学の基本的な概念や原理・法則を理解できるようにする。 ・電子黒板を活用し、デジタル教科書やデジタル資料を用いて、授業の中で実験や観察と同様の視覚的な刺激を与え、生徒の興味・関心・意欲を高める。 ・授業展開を工夫し、生徒が主体的に授業に参加できるようにする。	C		
	日常生活の中での科学事象への気付き	・新聞やテレビ等で取り上げられた話題を授業に取り入れ、身の回りで起こる現象等に興味を持たせるとともに、豊かな科学的素養を養わせる。 ・電子黒板を活用し、日常生活の中での科学事象を取り上げ共有するとともに、多角的な視点からの考え方を知ることによって、科学的素養の向上を目指す。 ・学校設定科目「涸沼と自然」の中で、地域との関わりを深めながら、多くの自然に触れ、科学に対する興味・関心、意欲を持つことができるようにする。 ・学校保有林の整備や水質調査などの環境学習を通して、我々にできる取り組みについて考え、実行することによって、地域の発展に寄与する。	B		
保健体育	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・チャイムスタートの徹底。体育時の服装の徹底。 ・授業を通してあいさつ・礼儀等を身につかせ、基本的な生活習慣を確立させる。 ・集団での行動や競技におけるルールを学び、公正・協力・責任などの態度を育てる。 ・準備運動での号令や準備、後片付けを主体的におこなうことができるようにする。	B	B	・生徒の授業への前向きな取り組みを今後も実現し、活気ある授業の展開を継続する。 ・体育器材の管理を徹底する。 ・視聴覚教材の充実を図る等、授業改善に努める。
	心身共に健全な発達と生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことによるよりよい人間形成	・健康安全の大切さを認識し、自らの生活習慣を見直し健康を適切に管理することを理解させる。 ・運動することに興味を持ち、体力を高めるための運動に継続的に取り組み、個に応じた内容基礎体力の向上と実践力を身につけさせる。また、体力テストの値を向上させる。	B		

	興味・関心を高める授業づくり	・意欲の乏しい生徒に対し、運動の技能を高めるとともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	B		
芸術	授業を受ける態度の育成	・教室移動を迅速に行い、チャイムスタートができるよう指導する。	B	B	〈音楽〉 ・個々に応じた指導の在り方を研究する。 〈美術〉 ・生徒ひとりひとりの思いを聞きながら作品につなげるための助言を心がける。 〈書道〉 ・外部からの刺激を含め豊かな情操を更に養う指導を研究する。
		・歌う、楽器を奏でる、静かに鑑賞ができるように取り組ませる。(音楽)	A		
		・授業開始までに学習に必要な用具用材を準備し、着席する習慣を身に付ける。(書道)	B		
		・表現及び鑑賞の活動をととして、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にした授業作り	B		
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる	・各自において、学習活動の目標を明確に示し、それぞれの特徴(歌唱・楽器／古典作品・用具用材)を捉え、主体的に表現する力を身に付けるための基礎基本を理解させる。	B		
		・鑑賞をととし、芸術への理解を深めるとともに、芸術の豊かさを味わうことができるようにする。	B		
		・幅広い活動を通して、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ表現させる。 ・感性を高める事を通して豊かな情操を養う。	B		
外国語	創造的な活動をととし、個性豊かな表現力の伸長	・生徒一人一人の表現力を伸ばすとともに、作品の製作や表現活動をととし、自己の可能性や表現の楽しさを理解させる。また他の生徒の個性を尊重する心を養う。	A	C	・授業準備の徹底を推進し授業を受ける態度の育成を更に図る。 ・興味関心を喚起する授業改善を推進する必要がある。 ・教材開発に創意工夫を更に図る。 ・電子黒板等の利活用の推進を図る。
	授業を受ける態度の育成	・教科書・辞書・ノート等の忘れ物がないように指導し、制服を整え落ち着いて授業を受ける態度を身につける。 ・チャイム着席・チャイムスタートの指導を徹底する。	C		
	英語の学習意欲の向上	・少人数授業を行い、グループ活動等の学習形態を工夫し意欲的に取り組める授業を展開する。 ・パフォーマンステストなどを行い、4技能を学ぶことができる授業を展開する。 ・デジタル教材等を活用し、電子黒板やその他の教具を活用した魅力的な授業を展開する。	C		
	基礎学力の向上	・少人数授業の利点を最大限に生かし、反復演習で基本的な語彙と文法知識の定着を図る。 ・「ベーシックトライ」をととして基礎学力の向上を図る。	B		
	進路を意識した学習の充実	・実用英語検定試験や全商英語検定試験により多くの生徒が目標の受験級に合格できるよう、課外指導や事前指導を計画し、受験指導を積極的に行う。 ・就職希望者・進学希望者に対して、授業内に就職試験・入学試験等の過去問題を取り入れ、進路実現に向けて必要な英語の力を身につけさせる。	C		
家庭	授業を受ける態度の育成	・学習に必要な教材の準備をさせる。また、実習においては服装をきちんとさせ、衛生面の意識を向上させる。	B	B	・基礎科目から各専門科目へのつながりを意識した学習計画の作成に努める。 ・基礎基本を大事にし、学習内容の定着に努める。
	自立できる力の育成	・食料域では、栄養や調理の理論、実習を通して自立できる力を身につけさせる。 ・衣領域では、被服の材料やその管理について学習し、自立できる力を身につけさせる。 ・クレジットや悪質商法の学習を通して、将来賢い消費者として生きる知識を身につけさせる。	B		
	健全な家庭生活観の育成	・食領域では、具体的に献立作成や調理実習を通して、健全な食生活の定着を図る。 ・衣領域では、被服管理を通して清潔な衣生活の定着を図る。 ・家庭・家族の学習を通して、健全な家庭生活のイメージを高める。	B		
商業	進路意識を高め、社会性の育成	・ビジネス基礎において、ビジネスに関する知識を幅広く取り扱い、自らが社会の一員として働くイメージを持たせ、進路意識を高める指導を行う。 ・実習を多く取り入れて、自らの思考やアイデアを形として表現できる力を身につけさせる。 ・商業の諸科目を通して、企業が順守すべき法令や個人情報の大切さを指導して、節度ある言動の取れる社会人の育成を目指す。	B	B	・多くの資格取得に向けた取り組みを今後も推進する。
	資格取得の奨励	・簿記検定・情報処理検定・電卓検定などの取得を奨励し、より多くの合格を目指す。	A		
情報	情報モラルの育成	・学習を通して、情報社会の中で守るべきルール(法律やマナーなど)を身につけさせる。	A	B	・資格試験の受験機会の充実を図る。
	情報活用能力の育成	・コンピュータの基礎的・基本的な操作技術の習得を目指す。年4回ある検定試験を積極的に受験を促し、資格取得を目指す。	B		
教務	授業時間の確保	・授業変更・振替が確実に行われるようにし、授業時間の確保に努める。 ・「チャイム開始」「チャイム終了」を厳守し、1分を大切に授業を実践する。	B		・平成30年にノートパソコン、31年にサーバーを計画

		・学校行事等が特定の曜日・時間に偏らないようにし、教科・科目の授業時数のバランスと授業時間の確保を図る。			的に更新する。教室整備用品を充実する。
	特色ある教育課程の編成	・本校の現状と将来像を見据えて、多様な進路希望の実現を図る教育課程を研究する。 ・年間行事の計画に基づいて円滑に展開されるよう、各部・各学年との連携を密にする。	B	B	・業務軽減に向けて校務支援システムを活用する。 ・授業のチャイム開始終了の徹底。
	「ベーシックトライ」の円滑な実施	・電子黒板を活用した「ベーシックトライ」の教材を研究し、一層の基礎学力の向上を目指す。 ・電子黒板を用いた教授法の研究を推進し、知識の定着を図る取り組みを推進する。	B		・生徒の授業への意識を高める。
	生徒の実態に応じた創意ある指導計画及び指導法の研究	・授業の積極的な公開を全教科で実施し、学習指導の質的向上を目指した校内研修を行う。 ・シラバスを早期に作成し、編集・発行に努める。	B		・B T で電子黒板を積極的に使用する。学力差へ対応した教材を検討する。
	開かれた学校を目指し、地域への情報発信	・学校案内パンフレットやホームページの内容を充実し、中学生・保護者・地域等への広報活動を充実する。ホームページの更新は一月に4回以上を目指す。 ・学校説明会を長期休業中に年間2回及び学校公開を11月に実施し、中学生・保護者・地域住民が本校を深く理解する機会を設定する。 ・地域との連携協力による国際理解教育を推進し、開かれた学校づくりに努める。	B		・フリー公開授業期間を実施し授業研修を実施する。 ・内規の継続的な見直しを行う。
	校内情報管理の徹底	・適切な校内情報管理の徹底に努める。	B		
生徒指導	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・挨拶、礼儀、言葉遣い等を中心に、マナー全般の向上を目指し、継続して指導を行う。 ・服装頭髪指導の徹底を図る。 ・遅刻の減少を図る。(目標達成率を登校生徒の5%未満とする) ・さわやかマナーアップ運動の推進。(身だしなみを整える)	B		B ・基本的生活習慣の確立(挨拶・服装・言葉遣い)を更に図る。 ・立哨指導の充実を図る。 ・集会時の態度の育成を図る。 ・授業の参加態度の醸成を図る。 ・教員間の情報の共有を更に推進する。
	問題行動及び非行化の未然防止	・教員と保護者間の連携を密にし、指導にあたる。 ・校舎内外及び学校近隣地域の巡回指導の徹底を図る。 ・教員間での公平、公正な指導と共通理解の徹底を図る。	B		
	交通事故の未然防止	・校外巡回指導及び立哨指導、保護者との連携を密にし、事故の未然防止に努める。 ・交通安全講話の実施。 ・交通安全及び交通法規遵守、ルールやマナーに関する意識の高揚を図るため、ホームルームその他の機会を設定する。	B		
	自己の安全や健康に関する意識の高揚	・薬物乱用防止(喫煙を含む)については、講演会の開催などにより指導の徹底を図る。 ・携帯電話やスマートフォンの適切な利用について、家庭でのルール作りを推進し、年に2回の講演会(外部講師による)を開催し、指導の徹底を図る。 ・集団生活における自己の役割と責任を自覚させる。	B		
特別活動	生徒会活動の充実	・生徒会役員として自覚ある行動を促す。 ・生徒総会やクラスマッチなどの学校行事において、自主的・自発的な行動を促す。また、生徒が主体的に企画・運営できるよう指導する。	B		B ・生徒会役員が自主的・自発的に行動できるよう計画的な生徒会活動の展開を支援する。 ・部活動加入率を上げ、部活動の活性化を図る。 ・ホームルームの時間を確保し、ホームルーム活動の充実に努める。
	部活動の奨励と活性化	・体験入部・仮入部を充実させ、部活動加入生徒の拡大を図る。 ・部活動指導を充実させ、運動部・文化部・同好会の活性化を図る。 ・部活動掲示版などを利用し、各部活動の活動状況・活躍を全校生徒に向けアピールする。	B		
	ホームルーム活動の充実	・ホームルーム役員の積極的な活動を促す。また、ホームルーム活動資料の活用を図る。(道徳教育の充実、東日本大震災を踏まえた安全教育・体験活動、ケータイ・スマホ利用について) ・好ましい人間関係の構築やこころの教育、ボランティア活動をとおして、奉仕の精神を養う。	B		
	学校行事への積極的に参加する態度の育成	・各ホームルーム役員や各常任委員会の役員として、クラスマッチなどの学校行事に対して積極的に参加する態度を育成する。また、学校新聞などを活用した広報活動の充実を図る。 ・地域との交流行事やボランティア活動などに積極的に参加し、地域の一員としての自覚が持てるように指導する。	A		
進路指導	生徒の進路決定支援の充実	・各種ガイダンスや、インターンシップ、デュアルシステムの実践を通して、早い段階から計画的に、生徒が望ましい職業観・勤労観を育成できるようにする。			・進路情報、データの分析に努め、進路指導に積極的

		・進路指導部主体で生徒の希望に添った課外を企画・実践し、定着させる。 ・企業訪問を計画的・組織的にを行い、求人確保を図る。 ・内定の辞退、早期離職を防ぐため、生徒との進路相談を充実させる。	B		に反映する。 ・本校「キャリア教育全体計画」を再整備する。 ・全体目標、学校課題、各学年の重点目標の明確化を図る。 ・進路に関する文献や資料等の充実を図る。
	情報の共有	・本校キャリア教育のスタイル確立に向けて、キャリアデザイン等の実践を全年次で共有し、効果的な工夫・改善を図る。 ・模擬試験の全年次定期実施により、学校全体としてのデータの蓄積を図る。 ・受験報告書や入試情報の分析を積極的におこない、進路指導に反映させる。 ・ジョブサポーターやハローワークとの連携を密にとり、タイムリーな求人情報を得る。 さらに、この情報を生徒や保護者へ速やかに提供する。 ・進路の手引きの活用や進路だよりの発行を通して、生徒及び保護者への情報提供を行う。	B	B	
	環境整備	・進路資料室を整備し、生徒がより一層自主学習に取り組める環境づくりをする。 ・進路に関する文献やDVD等の充実を図る。	C		
保健厚生	清掃の徹底と環境整備の充実	・年間計画に基づいて定期検査及び日常点検を実施し、学習環境の充実を図る。 ・毎日の清掃、一斉清掃の徹底を図る。	C	B	・清掃の徹底・清掃時間の確保や安全点検後の速やかな改修を行う。性教育講話の効果的な実施を研究する。定期健康診断受診の徹底を図る。
	生徒の心身の健康管理の充実	・健康診断・各種検診の実施と事後指導の徹底を図る。 ・生徒の健康維持のために担任・保護者・学校医との連携を図る。	B		
	防犯・防災意識の高揚	・避難訓練を実施し、防犯・防災意識の高揚を図る。 ・不審者に迅速に対応する意識の高揚を図る。	A		
渉外	保護者の学校行事への参加率の向上	・PTA役員を中心に保護者が学校に来校しやすい環境を整え、PTA総会をはじめとする学校行事に保護者に積極的に参加をしてもらう。そのためにホームページや緊急メール配信システムを利用し、保護者に周知徹底を図る。	B	B	・PTA総会等の行事への参加率の向上を図る。
	情報の共有化	・行事ごとにデータを整理して体系化することにより、行事の円滑な運営を目指す。	B		
	後援会の活性化	・40周年の式典事業に関し、後援会と連絡を密にして式典を成功させる準備を行う。	A		
図書・視聴覚	図書館の整備及び図書館利用率の向上	・書籍や図書資料を充実させ生徒の図書館利用率の向上を図る。	B	B	・図書館の利用率の向上を図る。 ・昼休みの校内放送の充実。放送委員会活動の活発化を計画的に図る。 ・図書委員、放送委員の活動の更なる充実を目指す。
	生徒図書委員研修会指導	・研修会への参加、出前講座受講などの校外活動を通し、図書館利用マナーの意識の向上を図る。生徒作成による図書館だよりの発行を行う。	A		
	各行事・昼の放送の主体的活動の実践	・放送委員会の指導を通し、マラソン大会やクラスマッチ等の行事における放送設備の準備を計画的に行う。また、昼休みの校内放送の内容充実を図る。	B		
	放送室及び視聴覚室の環境整備	・備品管理に努め、使いやすい放送室及び視聴覚室の管理に努める。	B		
教育相談	教育相談活動の充実	・教職員、スクールカウンセラー、保護者と連携を図り、生徒への支援を行う。 ・生徒が相談しやすい環境を作る。	B	B	・研修会の充実を図る。 ・カウンセリングが必要な生徒についての情報共有を推進する。 ・生徒が相談しやすい環境の整備に努める。
	校外・校内における研修会の積極的な参加と実施	・校内において研修会を開きカウンセリングの様々な方法を学び、生徒一人ひとりの悩みや不安に対応する。 ・校外における研修会に積極的に参加する。	C		
1年次	基本的生活習慣の確立	・登校・始業・集合などの時間厳守の徹底と5分前行動の意識付けを行う。 ・高校生として相応しい頭髪・服装を自覚させ、話を聞く姿勢を身に付けさせる。	C	B	・制服の着こなし指導の推進を更に図る。 ・基礎学力向上に向けた取り組みを更に強化する。 ・生徒面談の充実を図る。 ・語彙力検定を継続実施する。 ・校外活動への積極的な参加継続を促す。
	基礎学力の向上	・授業に臨む好ましい姿勢を身に付けさせ、学習に集中して取り組ませる。 ・「ベシットライ」を通して、基礎学力の向上と定着を図る。	C		
	進路希望の実現	・キャリアデザインⅠを通して、社会に必要な資質について気付かせる。 ・通常課外や休業中課外を計画的に行い、漢字検定・英語検定の合格率向上と上位層の学力伸長を目指す。	A		
	部活動・特別活動などへの積極的参加	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人一人に個性を発揮して活躍できる場を見つけさせる。そして、茨城東高校の一員としての自覚を持たせる。 ・学校行事や校外活動への積極的な関わりを支援し、生徒同士や生徒と教員・地域等とのコミュニケーション機会の増加を図る。	B		
			C		
2年次	基本的生活習慣の確立	・時間厳守の意識を持たせ、常に時間を意識した行動がとれるようにする。特に授業・集会	D		・改めて、基本的生活習慣

		等におけるチャイムスタートの定着を図る。			の見直しを図る。
		・高校生としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、きちんとした制服の着こなしができるようにする。	D		・生徒自らの判断でON/OFFの行動の切り換えができるようにする。
		・式典や集会等に臨むときの態度や、きちんと話を聴く姿勢を身に付けさせる。	C		・インターンシップを通して学んだ日頃の「挨拶」と「話し方」の大切さを意識させながら、コミュニケーション力の育成を図る。
	基礎学力の向上	・授業を大切にし、落ち着いて授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。	C		・進路希望未定の生徒が多い。個人面談を多用しながら、進路目標を具体化させる。また、その実現に向けて計画的に準備ができるようにする。
		・「ベーシックトライ」を通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。	B		
	進路希望の実現	・進路ガイダンスやインターンシップを通して自己の進路に目を向けさせるとともに、進路実現に向けて必要なものを把握し準備をさせる。	B		
		・進学希望者向け課外を計画的に実施し、上位層の学力の伸長を図る。	D		
		・夏休みなどの長期休業を利用し、オープンキャンパスなどに積極的に参加させる。	D		
	行事への積極的参加と集団の一員としての自覚	・学校行事に参加することの意義を理解し、生徒全員が休まずに行事に参加することができるようにする。行事の計画と実践を通して、一人が皆のために、皆が一人のために協力しようとする意識を育てる。	B		
		・地域で行われる行事に対しても、本校の代表として参加できる生徒を育てる。	B		
3 年次	基本的生活習慣の確立	・自分の行動について、自己管理を行い、5分前行動をすることによって時間厳守の精神を培う。		C	
		・他者から見た自分を意識し、絶えず制服の着用の仕方や頭髪について自覚をもって行動することができるようにする。			
	基礎学力の向上	・「ベーシックトライ」を始めとする授業を大事にし、集中して取り組む姿勢を身に付けさせ、各々が進路実現に必要なとする学力の定着を目指す。	B		
	進路希望の実現	・自分の進路について、比較検討を含めて考え、早い段階から行動を起こせるように準備をする。		B	
		・進学課外を充実させるとともに、校外講座に参加するなど多様な学習経験をさせる。			
		・就職、進学を意識し、志望動機を常に意識した行動をするとともに、面接や小論文、作文など自己を表現するための能力を身に付ける			
	茨城東高校の一員としての自覚を持たせる	・創立40周年を迎える茨城東高校の最高学年として、諸先輩から受け継いだ伝統と誇りを胸に、愛校心を持って行動し、地域のリーダーとなる資質を身に付ける。		B	
		・生徒一人一人が自分の役割を考え、協働し、全員が笑顔で卒業式を迎え、社会人としてのスタートが切れるように準備する。			
事務	予算の適正な執行	・公金であるという認識のもと、コスト意識を持ちオープンカウンター方式による見積合わせ等を活用しながら早期かつ効果的な執行に努める。	B		
	施設設備の適正管理及び教育環境の整備	・定期的に校内巡視を実施し、校内危険箇所の早期発見及び早期改修の実施に努める。		C	
		また、施設設備の整備・改修など、教育環境がより充実するよう努める。			
	省エネルギー・資源リサイクルの推進	・引き続き省エネルギー（節電・節水等）の推進に取り組み、使用量の削減に努める。特に電気料については、契約電力が前年度を上回らないように注意する。		B	
		・廃棄物の分別を徹底し、焼却ゴミの排出量を削減する。また、グリーン購入法に適合した物品・コピー用紙等の購入により資源リサイクルを推進する。			
	窓口等での適切な接遇	・学校の第一印象は窓口業務にかかっているという自覚を持ち、来校者や電話での対応をより適切かつ丁寧に行うよう心がける。	A		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない